



TITLE:

ノバ・ヘルクリス発見と双子座の ダブルトライアングル

AUTHOR(S):

宇野, 良雄

CITATION:

宇野, 良雄. ノバ・ヘルクリス発見と双子座のダブルトライアングル. 天
界 1935, 15(167): 193-194

ISSUE DATE:

1935-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166974>

RIGHT:

ノバ・ヘルクリス発見と

双子座のダブルトライアングル

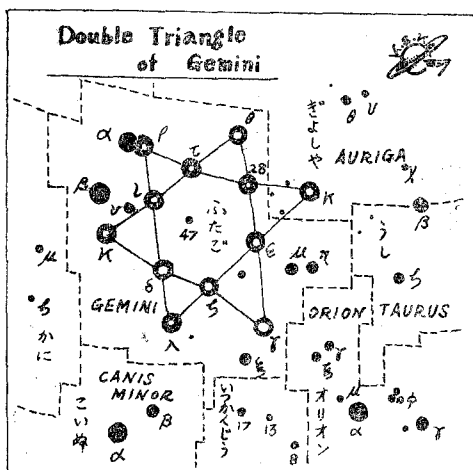
京都市 宇野良雄

花山急報によれば、ヘルクリス座新星は昨年拾貳月拾參日 双子座流星群観測中の英國の流星観測家によつて発見されたとのことである。発見當時の光度は不明であるが、同日は双子座流星群出現最盛の日であり、その數日間には日本各地に於いても數名の観測者が空を見て居たことと思ふが、誰にも発見されなかつたのは残念な事である。

ヘルクリス座が双子座と可成離れてゐて、日本では普通観測を初める頃には地平線下にあり、午前三時頃地平線上に現はれるため観望の時間が少なかつた事、及び其後薄明まで現はれてゐるが観測方向と反對の東北の空のため、そ

の方に注意が拂はれなかつた等により発見せられなかつたのであらう。緯度の高い英國では周極星に近いものであり、その発見に有利であつた。

新星発見は往々流星観測者によつてなされる、流星観測者が新星発見をなすのは日頃空を見る機会が多く、亦星圖と比較しつゝ一定範圍の空を相當長時間に涉り注視することにより、相當微光な星までその配置を知るからであらう。しかし観測は普通の場合輻射點を中心とするほんの空の一部であり、その内に新星が出現するのは餘程の偶然である。新星出現は銀河近くに多いもの故、流星観測者は時には銀河の方向に眼を向けることも必要だ、と何かで讀んだ事がある。今後観測の際は氣を掛けてみたいことである。



昨年秋と冬に双子座流星群の観測を数日行つて、暁の東天中空に掛る双子座を注視してゐる内に、拾數個の星よりなる珍妙なる星の圖案、ダブルトライアングルを發見した、圖がそれである。總體に光度が弱く、カストル、ポルツクスの強光度の一對に目を引かれ極立つて目立たないものであるが、少し見てゐれば浮び出て充分その配列の美に親しめるものである。もしこの各角を構成する拾貳個の星の光度が、もう少し強く揃つてゐれば、オリオン、大犬と列び大空のダイヤモンドとして斷然他を壓することだらう、一度御覽になる事を希望する。他の空も探せば相當面白いものが得られるだらうと思つてゐる。(昭和十年一月)

下保氏考案の“Colorimeter”

寫眞にて A は黃道光をのぞく窓、B はフイルタ 1 を透して比較面 F をのぞく窓、C, D, E は夫々赤黄青三種 6 枚づゝのフイルタ 1 の枠、H はフイルタ 1 枠を左右に動かすスライディングゲート板、A B の影の所に光源があり比較面 F を照らし使用する時は光源及び比較面黒ラシヤ紙にて包む。フイルタ 1 はメルクの染料赤黄青各 1 グラムを 100 cc のアルコールに溶いたものを原液とし、この原液の 1%, 2%, 4%, 8%, 16%, 32% 溶液中に銀抜きをし

た乾板を五分間浸して染色したものである。

使用する際はフイルタ 1 枠を左右に動かして色を加減して黃道光の色と同じになる様、即ち A, B よりのぞいた兩者の色が同一になる様にするのである。(淺野)

